

タンタル・ニオブ事業

当社グループのTANIOBIS GmbH(在ドイツ、以下「TANIOBIS社」)は、世界各地に製造拠点と販売拠点を有する世界有数のタンタルとニオブの材料メーカーです。当社は、TANIOBIS社を中心にコンデンサや半導体材料用の金属粉、SAWデバイスや光学レンズ用の酸化物、半導体用の塩化物、高機能粉末材料等の安定供給を通じ、IoT/AI社会の発展に貢献しています。

重点戦略

- 既存事業における生産性向上、品質改善に加え、顧客密着型のビジネスモデルの強化
- 事業基盤拡大に向けた新規事業のアイテム創成および事業化の推進

2020年度の振り返り

既存事業においては、コンデンサ用高純度タンタル粉は2019年から続く一部大手顧客の在庫調整等があり、販売が伸び悩んでいたものの、新型コロナウイルス感染拡大による巣ごもり需要もあり底を打ち、2021年度の堅調な需要につながっています。また、スパッタリングターゲット用高純度タンタル粉は、半導体市場好調により需要増となりました。一方で、ニオブが用いられる航空機用エンジンやガスタービン等への合金添加材市場は大きく低迷しました。また、新規事業開発においては、事業基盤拡大を図るべく、TANIOBIS社と当社、東邦チタニウム(株)グループ、各種スタートアップとの綿密な連携による製品開発やシナジー実現に向けた活動を推進しています。これまで顧客からのさまざまな要望に応えるなど、上市に向けて着実に成果を上げつつあります。

TOPICS

Customer First Projectの推進

TANIOBIS社の高い技術や優れた製造プロセスをより活かし、顧客目線に立った営業と開発・製造を推進すべく、2020年度から「Customer First Project」として、顧客密着型のビジネスモデルを展開しています。各製造拠点にテクニカルセンターを新設し、顧客の話を聞きながら開発・改良を行うことで、顧客ニーズの引き出しを行います。営研一体となってワンストップで対応し、利便性が向上するので、顧客からもこの取り組みを評価する声が聞こえてきており、拡販にも徐々に効果が出つつあります。今後もTANIOBIS社はタンタルとニオブを中心に、市場の期待に応え、高品質の高機能粉末材料を安定的に供給することで、IoT/AI社会の発展に貢献していきます。



TANIOBIS社ゴスラー工場



JX金属(株)
執行役員 タンタル・ニオブ事業部長 技術本部審議役
飯田 一彦

2021年度の見通し

巣ごもり需要の拡大やPC、通信インフラ向け需要増といった要因から、TANIOBIS社の主力製品であるコンデンサ、半導体用スパッタリングターゲット用のタンタル粉の需要は好調に推移すると考えています。一方、ニオブは先行き不透明な状況が続いていますが、航空機産業の状況等は一時より回復しつつあります。こうした状況の中、TANIOBIS社としては、営業と技術が一体となった顧客目線の営業活動を推進し、一層のシェア拡大を図るとともに、各拠点の製品構成の最適化やコストダウン、安定した原料調達を進めていきます。また、ゴスラー工場で再生可能エネルギーに100%切り替えを実施する等、CO₂ネットゼロ化にも積極的に取り組んでいます。新規事業についても、レアメタル、機能性粉末を軸とした開発中の新規アイテムの早期商業化を推進していきます。

資源事業

2006年の権益取得以降、当社グループが中心となって開発を推進してきたカセロネス銅鉱山では、2014年5月に銅精鉱の生産が開始されました。また、ロス・ペランブレス、エスコンディータといった世界有数の銅鉱山に出資しており、2020年度の権益銅生産量は合計で約19万トンとなっています。

重点戦略

- カセロネス銅鉱山の全権益取得を受け、安定運営体制の確立と事業価値の向上
- 中下流事業への原料供給を視野に入れた新規案件(探鉱／開発／操業中)の発掘・推進

2020年度の振り返り

カセロネス銅鉱山については、共同出資者である三井金属鉱業(株)および三井物産(株)から両社保有権益を2021年2月に譲り受け、全権益を取得しました。操業に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、ソーシャルディスタンス確保のため食堂設備の拡張や人員輸送の運用の見直しなどを講じたものの、2019年度に比べ減産となりました。当社が出資するロス・ペランブレス銅鉱山およびエスコンディータ銅鉱山でも、カセロネス銅鉱山と同様に感染拡大防止対策を行いながら操業を継続しました。なお、ロス・ペランブレス銅鉱山の設備増強計画は、感染拡大防止のための一時中断による影響などを踏まえて計画を見直し、2022年後半の工事完了を予定しています。

TOPICS

カセロネス銅鉱山の全権益取得

2021年2月、当社はカセロネス銅鉱山のすべての権益を取得しました。これにより、世界的に精鉱中の銅品位が低下し、不純物が高まる傾向にある中、製錬所の原料として価値が高まっている高品位でクリーンなカセロネス銅精鉱の権利を100%取得したことになります。クリーン鉱の供給を増やすことによって、製錬所では処理能力に余力が生じ、リサイクル原料の増処理が可能となります。そのため、カセロネスのような優良な銅精鉱の確保は、当社グループ製錬所にとって極めて重要で、金属・リサイクル事業の競争力向上にも貢献しています。



カセロネス銅鉱山



JX金属(株)
執行役員 資源事業部長 技術本部審議役
成井 英一

2021年度の見通し

カセロネス銅鉱山においては、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を継続しつつ、操業重点課題に対するアクションプランの確実な実行により、さらなる操業のレベルアップとコスト改善を推進し、収益力を強化していきます。ロス・ペランブレス銅鉱山においては、2019年度より開始した増強計画の完工に向けて注力し、新規案件の発掘・推進についても、当社の中下流事業における将来のニーズへの安定的な原料供給を実現すべく、レアメタルや珪酸鉱を含めた多様な鉱種で国内外において調査・検討を進め、事業化を目指します。